

郷土館企画展

平成5年7月25日～8月31日

ふるさとの画家と その作品展



「月島の月」栗原 忠二

「月島の月」(50号F) 栗原忠二

「月島の月」は、栗原が東京美術学校(現東京芸術大学)在学中の明治42年(1909)に、第12回白馬会展に出品した作品で、東京朝日新聞で好評を得ることができた。

その後、作品は郷里三島に持ち帰られ、母校の町立尋常小学校(現南小の前身)に贈られ、戦後まで同校の宝として、多くの後輩たちに見守られてきた。しかし、長年の展示により絵の具の剥落等が進み、昭和46年には新設成った郷土館に移管された。平成4年、郷土館はこれを専門修復業者に依頼し、「月島の月」は元の色彩を取り戻すことができた。

本作品は、新進気鋭の栗原が、画家としての道を歩き始めた最初の自信作品であり、記念の力作と言えるであろう。

開催趣旨

水と緑の町三島には、豊かな自然が育んだ美しい文化があります。その文化の種を蒔いたのは、ふるさとに生まれ、ふるさとを愛した先輩たちです。

このたび、郷土館の企画展では、三島の文化の基礎を創った7人の画家を取り上げてみました。画家は一人一人が個性あふれる人物です。しかし、かれらの作品には、それぞれのふるさと三島に対する熱い思いが描かれています。

本企画は、平成2年にふるさと創生事業で三島市が買い上げた4人の画家と、三島が生んだ水彩画の巨匠・栗原忠二、そのほかの作家を加えた7人展で構成致しました。

会期中、多くの市民のみなさまがお出掛け下さり、ふるさと文化の種蒔く人たちの力作をご鑑賞いただければ幸いです。

平成5年7月25日 三島市郷土館

栗原 忠二

くりはら ちゅうじ

明治19年10月21日(生)～昭和11年11月12日(没)



栗原 忠二

(本名 栗原忠二)

- 明治19年(1886)・10月21日、栗原宇兵衛、くらの次男として、久保町(現中央町)に生まれる。
- 明治37年(1904)・3月、葦山中学(現葦山高校)を卒業。
- 明治40年(1907)・東京美術学校西洋画科に入学(現東京芸術大学)同期に萬鉄五郎、2年先輩に近藤浩一路がいた。
- 明治42年(1909)・第12回白馬会展に「月島の月」を出品、東京朝日新聞で好評を得る。
- 明治45年(1912)・東京美術学校卒業。
- 大正元年(1912)・10月、日本郵船宮崎丸で横浜を出航、ロンドンへ旅立つ。
- 大正 4年(1915)・国際美術家協会展に「リッチモンド」「陽のあたる昼下がり」を出品。
- 大正 5年(1916)・春、王立国際美術家協会展に出品し、「優待線」に陳列される。
- 大正 9年(1920)・パリ、ヴェネチアなどに最初の旅。
- 大正13年(1924)・2月、香取丸にて帰国の途につく、4月神戸着。三島龍澤寺本堂をアトリエとして制作。日本水彩画会々員となる。
- 大正15年(1926)・2月、箱根丸で横浜を出航、再渡英。翌年帰国。
- 昭和 3年(1928)・東京市街西荻窪上井草にアトリエを新築し移住。
- 昭和 8年(1933)・築地洋画研究所を設立。絵画鑑賞団体「チェルシーソサイアティ」を発足、事務所を築地のアトリエに置く。
- 昭和11年(1936)・11月12日、逝去。井荻の自宅で告別式、三島で本葬、林光寺(加屋町)に埋葬。



英国風景

- 展示作品
- | | |
|-----------|------------|
| 1. 月島の月 | 2. 淡島風景 |
| 3. 春のヴェニス | 4. 富士望遠 |
| 5. 英国風景 | 6. スケッチブック |

肖像写真



春のヴェニス

出品協力者

栗原恒夫氏(中央町)

細井 繁誠

ほそい はんせい

明治38年6月2日(生)~昭和52年7月9日(没)



細井 繁誠

(本名 細井繁誠)

- 明治38年(1905)・6月2日、三ッ谷新田(現三ッ谷新田10)の旧家細井家に生まれる。
- ・遠州見付の中泉農学校(現県立磐田農業高校)に入学。同校の美術教師に非凡な画才を認められる。
 - ・和田三造氏の内弟子となって画業を研さん。
- 大正12年(1923)・18歳で帝展(文展)に出品、初入選。
- ・以来入選を重ね後に特選となる。
- 昭和6年(1931)・8月26日、詠子と婚姻。
- 昭和8年(1933)・文展無鑑査の処遇を受く。
- 昭和12年(1937)・細井氏を中心に絵画グループ「十日会」が発足。
- ・同会には杉本英一、片岡明美、佐々木高幹、秋本三歩、小西政三、らが参加。
 - ・戦後、新協美術協会の創立に参加。
 - ・同会委員として力作を発表。
- 昭和15年(1940)・長男 龍輔 出生
- 昭和19年(1944)・この年の作品「下田港」は、三島市立西小学校へ寄贈される。
- 昭和26年(1951)・第1回~24回まで出品と審査を続ける。
- 昭和37年(1962)・6月7日、妻 詠子 没。
- 昭和47年(1972)・三ッ谷から眺めた三島市街夜景を描いた作品「暮色」(油30号)が文部大臣賞を受ける。
- 昭和52年(1977)・7月9日、72歳の生涯を閉じる。



海辺

- 展示作品
1. 月と芋畑
 2. 裸婦
 3. 海辺
 4. 夕日の海

細井画伯の筆立てと絵筆



月と芋畑

出品協力者

瀬川哲氏(寿町)

細井龍輔氏(三ッ谷新田)

杉本 英一 すぎもと えいいち

明治43年2月28日(生)～昭和57年2月15日(没)



杉本 英一

(本名 杉本英一)

- 明治43年(1910)・2月28日、三島市山田(現川原ヶ谷(山田)827)の農家に生まれる。
- 昭和4年(1929)・市ヶ原の伊豆相互貯蓄銀行(現静岡銀行三島支店)に勤務。
 - ・そのころ同人雑誌の表紙の絵を担当して描く。
 - ・柏木俊一(国画会)の弟子となる。
- 昭和6年(1931)・「真鶴港」(油50号)国展に初入選。
 - ・以来、連続国展に入選。
 - ・銀行を辞め、沼津桃中軒ビル階下に絵画材料店を開きながら制作を続ける。
- 昭和12年(1937)・日中戦争に召集を受け、画業は一時中断する。
- 昭和14年(1939)・現地除隊、上海で絵画制作を復活。
 - ・当時、内地へ送ったはがき「蘇州八景」が三島で展覧される。
- 昭和18年(1943)・俊と婚姻。
- 昭和21年(1946)・帰国、山田の自宅内にアトリエを建て本格的に画業と取り組む。
 - ・絵画教室を開き後輩の指導をする。
- 昭和22年(1947)・5月5日、長男龍司 出生。
- 昭和28年(1953)・三島市美術展が始まり第1回展から審査員に推される。
- 昭和39年(1964)・病気により療養生活にはいる。
- 昭和57年(1982)・2月15日、没。
- 平成3年(1991)・妻 俊 没。



菊

- ### 展示作品
1. 風景
 2. 絵画教室
 3. 赤富士
 4. 菊
 5. 人物
 6. 富士山

イーゼル

出品協力者

1. 石井茂氏(芝本町)
2. 石井泰夫氏(南本町)
3. 小西政三氏(大社町)
4. 杉本龍司氏(山田)
5. 堀内皇富士氏(一番町)



絵画教室

芹沢 晋吾 せりざわ しんご

昭和3年2月22日(生)～昭和53年2月5日(没)



自画像



スペイン風景

- 展示作品
1. スペイン風景
 2. 屠殺者
 3. 農夫
 4. 工場
 5. 自画像

芹沢画伯の遺品

出品協力者

芹沢昌子様(加屋町)

芹沢 晋吾

(本名 芹沢晋吾)

- 昭和3年(1928)・2月22日、三島市茅町(現加屋町8-21)に生まれる。
- 昭和14年(1939)・三島商業高校(現県立三島南高校)に入学。
・同校では美術部に入り、画才が目される。
- 昭和19年(1944)・横浜専門学校(現神奈川大学)経済学科へ入学。
- 昭和23年(1948)・同校卒業24歳。
- 昭和26年(1951)・自由美術協会展入選。
・同年三島では第1回美術展(新日本劇場)へ裸婦の大作を出品。
- 昭和29年(1954)・二科展入選。
- 昭和31年(1956)・行動美術展入選。
- 昭和34年(1959)・銀座画廊で個展開催。
- 昭和37年(1962)・汎太平洋国際青年画家展で日本代表で入選。
- 昭和41年(1966)・新宿紀伊国屋画廊で個展開催。
- 昭和43年(1968)・行動美術を脱退。
・フリーとなり以降毎年個展を開催。
- 昭和47年(1972)・スペイン・ポルトガルへ外遊。
・帰国後、第1回滞スペイン展を沼津市竹林画廊で開催。
・同年4月5日、昌子と婚姻。
- 昭和49年(1974)・第2回滞スペイン展を開催。
- 昭和52年(1977)・銀座同和画廊で「滞スペイン展」を開催。
- 昭和53年(1978)・2月5日、49歳の若さで生涯を閉じる。



農夫

下田 舜堂 しもだ しゅんどう

明治32年11月7日(生)～平成元年7月22日(没)



下田 舜堂

(本名 下田照太郎)

- 明治32年(1899)・神奈川県足柄市に生まれる。
- 大正7年(1918)・沼津中学校(現沼津東高校)に入学、初め文学の道を志したが、前田千寸先生の影響を受けて日本画の道へ志を変える。
- 大正9年(1920)・東京美術学校(現芸大)日本画科に入学。
- 大正15年(1926)・東京美術学校を卒業。後、芸術員会員の結城素明先生に師事する。
- 昭和3年(1928)・第10回帝展(現日展)に入選。
- 昭和11年(1936)・大妻女子専門学校(現大妻女子大)に迎えられ、以後昭和20年まで教鞭を取る。
- 昭和23年(1948)・沼津精華高校に迎えられ、同校教師となる。第1回県展で知事賞。沼津市展審査員となる。沼津静流会設立に参加。
- 昭和26年(1951)・三島市展の前身である三島新聞協会主催美術展の審査員となる。三島文化協会設立に参加、後、五所平之助氏の後を受けて会長に就任。
- 昭和27年(1952)・静岡県美術展審査員に就任。
- 昭和32年(1957)・柏木俊一、山口源、栗原誠、杉本英一、細井繁誠氏らによびかけて三島美術協会(第1次)を作る。
- 昭和41年(1966)・佐野美術館創立にともない初代佐野美術館長に就任。
- 昭和48年(1973)・三島美術協会(第2次)設立発足。
- 昭和54年(1979)・三島市民文化会議議長に就任。
- 昭和55年(1980)・三島市文化財保護審議委員の活動により、「静岡県教育學術功労賞」を受ける。
- 昭和62年(1987)・ギャラリープラザで個展を開催。
- 平成元年(1989)・7月22日、社会保険三島病院にて肺炎のため永眠。(享年90歳)



朝焼けの富士

- 展示作品
1. 朝焼けの富士
 2. 小浜池
 3. 松に飛鶴図
 4. 菊

下田画伯遺品



小浜池

出品協力者

下田周治氏(芝本町)

北上公民館

高梨 勝瀨

たかなし しょうせい

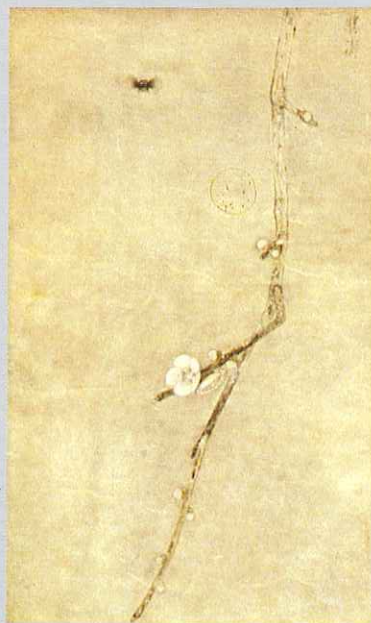
明治37年7月15日(生)~昭和62年3月8日(没)



高梨 勝瀨

(本名 高梨榮作)

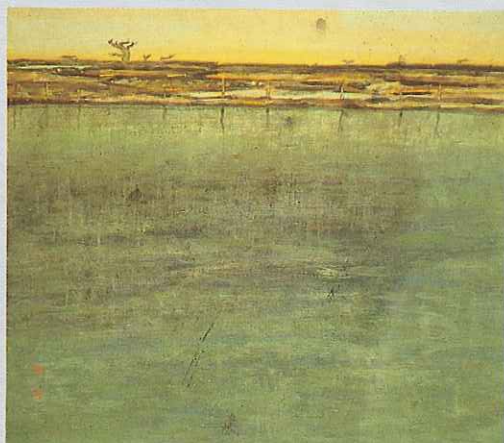
明治37年(1904)・田方郡大仁町に生まれる。
昭和4年(1929)・京都絵画専門学校(現京都芸術大学)を卒業。
(年不詳)・台湾に渡る。
(年不詳)・台湾総督府に作品「竹林田家」を買い上げられる。
(年不詳)・台湾美術奉公会幹事長を務める。
(年不詳)・台湾から帰国。
(年不詳)・三島市美術展審査員を務める。
昭和40年(1965)・県芸術祭賞を受賞「摩周湖」
昭和62年(1987)・永眠



春

- 展示作品
1. 春
 2. 風景
 3. 摩周湖

高梨画伯遺品



風景

出品協力者

高梨美恵子氏(徳倉)

瀬川 真 せがわ しん

明治40年10月17日(生)～昭和50年7月26日(没)



瀬川 真

(本名 瀬川真)

- 明治40年(1907)・10月17日、三島市宮町で料亭「魚半」を営む旧家、瀬川家に生まれる。
- 昭和3年(1928)・3月、沼津中学校(現沼津東高校)を卒業(第24回生)。
- (年不詳)・「魚半」の常連客だった画家の影響を受け、自らも絵の道に志を立てるが、父親の反対にあう。
- (年不詳)・沢地の龍澤寺の玄峰老師の教えを受けるため、龍澤寺に頻繁に通い、美術学校に行くことを決心する。
- 昭和11年(1936)・多摩美術学校(現多摩美術大学)を卒業。卒業制作にロウケツ染「人物風俗図」を制作する。
- ・昭和13年まで同校助手に就任。
- 昭和14年(1939)・昭和17年まで熱海小学校訓導として赴任。
- 昭和17年(1942)・昭和19年まで沼津学園高等女学校教諭として赴任。
- 昭和19年(1944)・昭和20年まで静岡県立静岡商業学校(現静岡商業高校)に赴任。
- 昭和22年(1947)・昭和34年まで三島第一中学校(現南中学校)に赴任。
- 昭和34年(1959)・昭和38年まで東中学校(現錦田中学校)に赴任。
- 昭和38年(1963)・昭和43年までの坂小学校赴任を最後に教員生活を終了。
- 昭和50年(1975)・7月26日、永眠。



人物風俗図

出品協力者

魚尾孝久氏(川原ヶ谷)

瀬川哲氏(寿町)

瀬川紀子氏(大宮町)

展示作品

1. 人物風俗図
2. 色紙
3. 反射炉絵葉書セット
4. 彫刻「茶」「閑」
5. 百刻百選版喜抄



百刻百選版喜抄

郷土館 企画展

ふるさとの画家と
その作品展

平成5年7月25日～8月31日

三島市一番町19-3 楽寿園内
☎(0559)71-8228 FAX 81-3730

三島市郷土館